

## — 岩手県知事からのお礼状 —

---

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

このたびの東日本大震災津波にあたりましては、本県に医療救護活動チームを派遣いただき、救護所における医療提供や巡回診療にご尽力いただき、感謝申し上げます。

3月11日の被災から約1ヶ月半が経ち、被災地は徐々に落ち着きを取り戻しつつあるものの、いまだに多くの方々が避難所での生活を余儀なくされています。こうした方々が適切な医療を受けられるよう、地域医療機関を中心とした努力が日々続けられています。

皆様からいただいた温かいご助力を糧に、県民皆で力を合わせ、希望に向かって一歩ずつ復興に取り組んでいきますので、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

敬具

平成 23 年 5 月 1 日

昭和大学病院長 様

岩手県知事 達 増 拓 也



—岩手県医師会長からのお礼状—

謹啓 春暖の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

去る三月十一日に発生した「東北地方太平洋沖地震」に際しましては、貴学より災害医療チームを派遣いただき、心より感謝申し上げます。

現地で医療活動に当たられた先生方やスタッフの皆様におかれましては、厳しい状況下で懸命の支援をして頂き、厚く御礼申し上げます。

今後とも、可能な限り長い期間、継続して被災地支援にご協力いただければ幸甚に存じます。

本来であれば拝眉の上、御礼を述べさせていただきますべきところでございますが、失礼ながら書中をもって御礼申し上げます。

敬白

平成二十三年四月五日

岩手県医師会

会長 石川 育



昭和大学

学長 片桐 敬 様



—岩手県立山田病院長からのお礼状—

前略

この度の地震津波による山田町への医療支援を頂きまして大変ありがたうございました。

岩手県沿岸の広範囲な災害の為（大きく破壊と受けた県立山田大槌釜石高田大東病院）岩手県医療局で今後の方針が決まらない状況の中で支援を頂いたことは町民県立山田病院にとりては強く大変ありがたいことと思っております。現在では仮設診療所での外来診療を続けながら入院設備を持った県立山田病院の再建を願っている次第です。その際には災害前の医療体制

をなく内科医数を中心とした県立山田病院となる

この山田町民の為に有用であると考える所です。誠に恐縮ですが、第一次から第七次まで、町民を

まいた板橋家頭夫先生と団長とするチームの募集、木内祐二先生と峰由美先生、矢嶋良平先生、

榎戸寛年先生、川年信行先生のチームの募集に、宜しくお任せ頂ければ幸いです。

本当にありがとうございます。

草々

岩手県立山田病院院長

及び 片桐 敬 様

(H23.4.11)

## — 岩手県山田町長からのお礼状 —

平成 23 年 11 月 1 日

各 位

岩手県山田町長 沼 崎 喜 一

山田町へ支援をくださったみなさまへ（御礼）

晩秋の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分に発生した東日本大震災により、本町では大津波と同時に火災も発生し、多数の死者・行方不明者、家屋の流失・焼失等、町史はじまって以来の壊滅的な被害を受けました。

このような中、皆様から心温まるご支援や激励を賜り、誠にありがとうございました。皆様のご厚意により、町民も少しずつではありますが顔を上げ、前を向いて動き始めることができました。

未曾有の震災から半年が経過し、おかげさまで去る 8 月 31 日には最後の避難所を閉鎖し、町内 46 箇所の応急仮設住宅に入居が完了し、被災者も自立に向けた歩みを始めたところです。

町においても、「二度と津波による犠牲者を出さない」災害に強い町づくりを基本理念とし、10 年後を見据えた復興期・再生期・発展期の具体的なまちづくりを示した山田町復興計画を策定中であります。

本町では過去にも、明治 29 年・昭和 8 年の三陸大津波、昭和 35 年のチリ津波など甚大な被害を受けながらも、その都度、先人たちの熱意と汗により多くの苦難を乗り越えて復興を成し遂げてまいりました。

私たちは、今回の震災からも、町民の英知と不屈の情熱により、必ずやこれを克服し、町民が安心して暮らせる、活気のある山田町を目指して、一丸となって邁進して参る所存ですので、今後も何とぞ宜しくお願い申し上げます。

結びに、皆様の益々のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げ、衷心からの御礼とさせていただきます。本当にありがとうございました。

### ◇山田町の被災状況等（10月24日現在）

- ・ 死亡者数 730 人（うち認定死亡者数 198 人、遺体判明者数 34 人）  
安否不明者※ 13 人
- ・ 家屋倒壊数 3,342 棟（全壊 大規模半壊 半壊 一部損壊）被災率 55.5%
- ・ 避難所 32 箇所 4,200 人（当初） 8 月 31 日で全て閉鎖
- ・ 応急仮設住宅 46 団地 1,940 戸 4,740 人が入居

※実際の死亡者数 566 人＝3 月 11 日死亡者数 730 人－（認定死亡者数 198 人－遺体変名者数 34 人）  
※実際の安否不明者数 177 人＝安否不明者数 13 人＋（認定死亡者数 198 人－遺体判明者数 34 人）

